

**「ウォーターフロント地区（中央ふ頭・博多ふ頭）
再整備の方向性」**

はじめに

ウォーターフロント地区（中央ふ頭・博多ふ頭）は、福岡国際会議場をはじめとするコンベンション施設が集積するとともに、韓国との定期船やアジアからのクルーズ船の寄港など、国内外から多くの人々が訪れるエリアとなっており、福岡市都心部における天神・渡辺通地区、博多駅周辺地区と並び新たな拠点となっています。

この地区の特性である、*M I C E機能や海のゲートウェイ機能のさらなる充実・強化を図り、アクセス性や回遊性の向上、並びに日常的な賑わいを創出することで、天神・渡辺通や博多駅周辺地区と連携を図りながら、福岡市の成長エンジンとなる都心部の国際競争力の強化を目指すとともに、都心部の貴重な海辺空間を生かし、市民や国内外の方々に親しまれる魅力的な都心部ウォーターフロントづくりに取り組んでいく必要があります。

今後、同地区の魅力的かつスピード感のあるまちづくりの実現に向けて、ウォーターフロント地区（中央ふ頭・博多ふ頭）の再整備のあり方や進め方などについて、市民のみなさんと共有し、産学民の活力やノウハウを生かしながら、計画的に取組みを進めていくため、「ウォーターフロント地区（中央ふ頭・博多ふ頭）再整備の方向性」について取りまとめたものです。

※M I C E（マイス）とは、企業等の会議（Meeting）、企業等が行う報奨・研修旅行（Incentive Travel）、国際機関・団体、学会等が行う国際会議（Convention）、展示会・見本市、イベント（Exhibition/Event）の頭文字を合わせた造語。多くの集客交流が見込まれるビジネスイベントなどの総称。



【目次】

1. ウォーターフロント地区の特性と位置づけ	1
(1) 対象地区の範囲	
(2) 対象地区の特性	
1) アジアとの近接性	
2) コンパクトな都市構造のなかの近接性	
3) 都市拠点や交通拠点との近接性	
4) 中央ふ頭・博多ふ頭地区の役割	
5) ポテンシャル	
(3) 上位計画における位置づけ	
1) 第9次福岡市基本計画	
2) 福岡市都市計画マスタープラン（都心部編）	
3) 福岡市都市交通基本計画	
4) 都市再生緊急整備地域及び特定都市再生緊急整備地域	
2. ウォーターフロント地区の現状と課題	9
(1) MICE・集客交流	
(2) 港湾（人流・物流）	
(3) 交通	
3. 再整備にあたってふまえるべき視点	12
(1) 中央ふ頭・博多ふ頭の経緯	
(2) ふまえるべき視点	
4. 再整備の方向性	14
(1) 基本的な考え方	
(2) 将来イメージ	
1) 導入機能イメージ	
2) 交通イメージ	
3) 回遊イメージ	
4) 全体イメージ	
(3) 実現に向けた取組み	
1) 今後の進め方	
2) 短期的な取組み（第2期展示場等の完成まで）	
3) 中長期的な取組み	
4) 初動期から中長期にかけての取組み	

1. ウォーターフロント地区の特性と位置づけ

(1) 対象地区の範囲

対象地区は、概ね中央ふ頭・博多ふ頭のエリアとします。



(2) 対象地区の特性

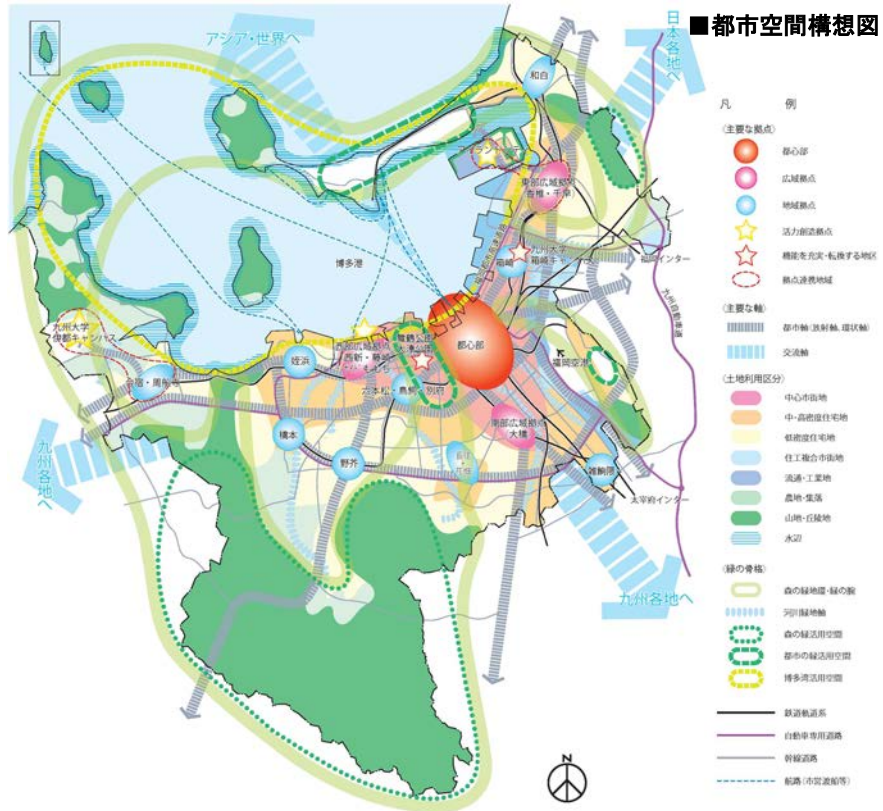
1) アジアとの近接性

- 博多港と釜山を3時間で結ぶジェットfoilや福岡空港からの午前中の上海便の就航により、東アジア主要都市への日帰り可能圏が着実に広がりつつあります。また、3時間以内に到達できる東アジアの都市は8都市にのぼります。
- 空・海ともに外国人旅客が増加し、アジア経済の成長と交流条件の充実により、福岡とアジアは双方向の交流へと進化しつつあります。



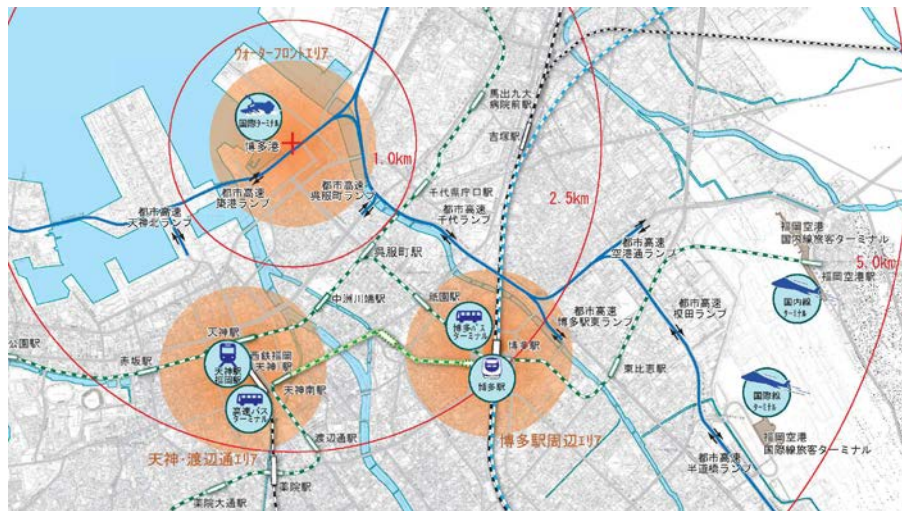
2) コンパクトな都市構造のなかの近接性

- 福岡市は、都心部を中心に海や山に囲まれ、空間的にまとまりのあるコンパクトな市街地が形成されています。
- 都心部は、豊かな自然環境や観光資源に恵まれた博多湾に近接しており、海を介して各地域とつながっています。



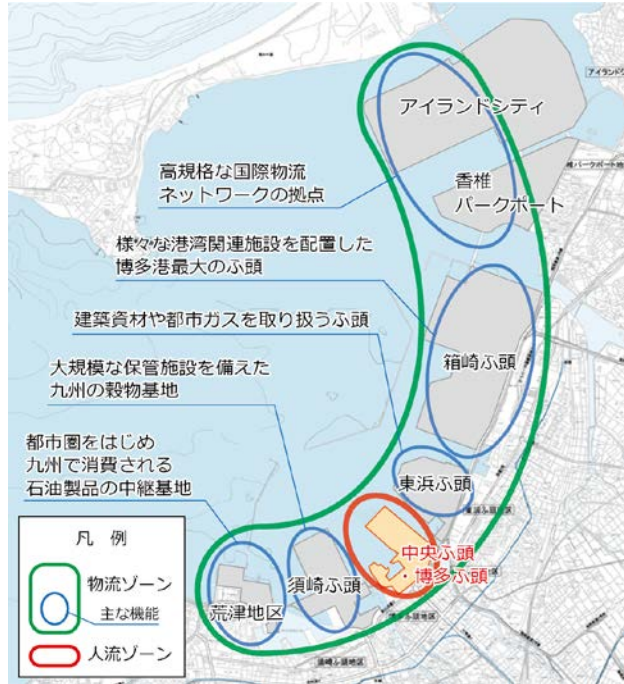
3) 都市拠点や交通拠点との近接性

- 福岡市の成長エンジンである都心部には、博多港・福岡空港・天神・博多駅など広域交通拠点が近接しています。



4) 中央ふ頭・博多ふ頭地区の役割

- 博多港は、九州随一の国際海上コンテナ貨物の取扱量を誇るとともに、国際乗降客数は 21 年連続日本一となっています。
- その中で、中央ふ頭・博多ふ頭地区は、九州・アジアの海の玄関口として、海外から多くの来街者を受け入れるとともに、物流についても、博多港の国際海上コンテナ貨物取扱の一翼を担っています。
- また、ふ頭の基部においては、コンベンション施設が集積する、交流拠点としての機能を担っています。



5) ポテンシャル

- ウォーターフロント地区（中央ふ頭・博多ふ頭）は、国際会議場をはじめとするコンベンション施設等が集積するとともに、韓国との定期船やアジアからのクルーズ船の寄港など、国内外から多くの人々が訪れるエリアとなっています。
- 福岡市は、国際会議の開催件数が4年連続国内第2位となっており、平成25年6月にはMICE誘致のポテンシャルを評価され、観光庁から「グローバルMICE戦略都市」に全国5都市の1つとして選定されています。
- また、ウォーターフロント地区に集積するコンベンション施設（マリンメッセ福岡、福岡国際会議場、福岡国際センター、福岡サンパレス）への来場者数は年間約250万人にものぼり、施設の稼働率はほぼ上限の80%超と高い水準にあります。

国際会議の開催件数及び都市別順位 (単位：件)

区分	1位	2位	3位	4位	5位	6位
H21 都市件数	東京 497	福岡 206(44)	横浜 179	京都 164	名古屋 124	大阪 94
H22 都市件数	東京 492	福岡 216(47)	横浜 174	京都 156	名古屋 120	神戸 91
H23 都市件数	東京 470	福岡 221(52)	横浜 169	京都 137	名古屋 112	神戸 83
H24 都市件数	東京 500	福岡 252(62)	京都 196	横浜 191	大阪 140	名古屋 126

()内はアジア関連会議の開催件数

- 博多港においては、国際乗降客数が21年連続日本一であるとともに、近年、アジアからのクルーズ船の寄港が増加しており、平成22、24年の外国クルーズ寄港回数は日本一となっています。

日本一

博多港クルーズ寄港回数

	平成19年 (2007年)	平成20年 (2008年)	平成21年 (2009年)	平成22年 (2010年)	平成23年 (2011年)	平成24年 (2012年)	平成25年 (2013年)
合計	15	35	42	84	55	112	38
外国籍	0	25	26	61	26	85	19
日本籍	15	10	16	23	29	27	19

(3) 上位計画における位置づけ

1) 第9次福岡市基本計画（H24年12月策定）

【都市経営の基本戦略】

- ① 生活の質の向上と都市の成長の好循環を創り出す
- ② 福岡都市圏全体として発展し、広域的な役割を担う



【分野別目標と施策】

目標5：磨かれた魅力に、さまざまな人がひきつけられている

施策5-4 交流がビジネスを生むMICE拠点の形成

《施策の方向性》

福岡都市圏内の大学、会議場、ホテルなどと連携しながら、会議、展示、飲食、宿泊などのMICEを支える多様な要素が一体として機能するよう、MICEの拠点機能を高めます。また、ウォーターフロントに集積するコンベンション機能を強化するため、新たな展示場の整備や天神・博多駅との回遊性向上を進めます。さらに、助成金やおもてなし事業による開催支援や地元企業とのマッチング支援などにより、リピーターの確保や新たなビジネスの創出など、地元経済への波及効果を高めます。

目標8：国際競争力を有し、アジアのモデル都市となっている

施策8-1 都心の活力を牽引する都心部の機能強化

《施策の方向性》

建築物の建替えと道路や公園などの公共基盤の整備・更新の機会を捉え、官民共働で高質なビジネス環境や広域から人を集める魅力づくりを推進し、都心部の国際競争力を高め、商業、文化、国際ビジネスなどの集積を促進します。

特に、都心部の核となる天神・渡辺通、博多駅周辺、ウォーターフロントの3地区について、それぞれの都市機能を高めるとともに、回遊性の向上を図り、地区間相互の連携を高めます。また、陸・海・空の広域交通拠点との近接性を生かしながら、3地区を一体として都心の機能の強化を進めます。

施策8-4 成長を牽引する物流・人流のゲートウェイづくり

《施策の方向性》

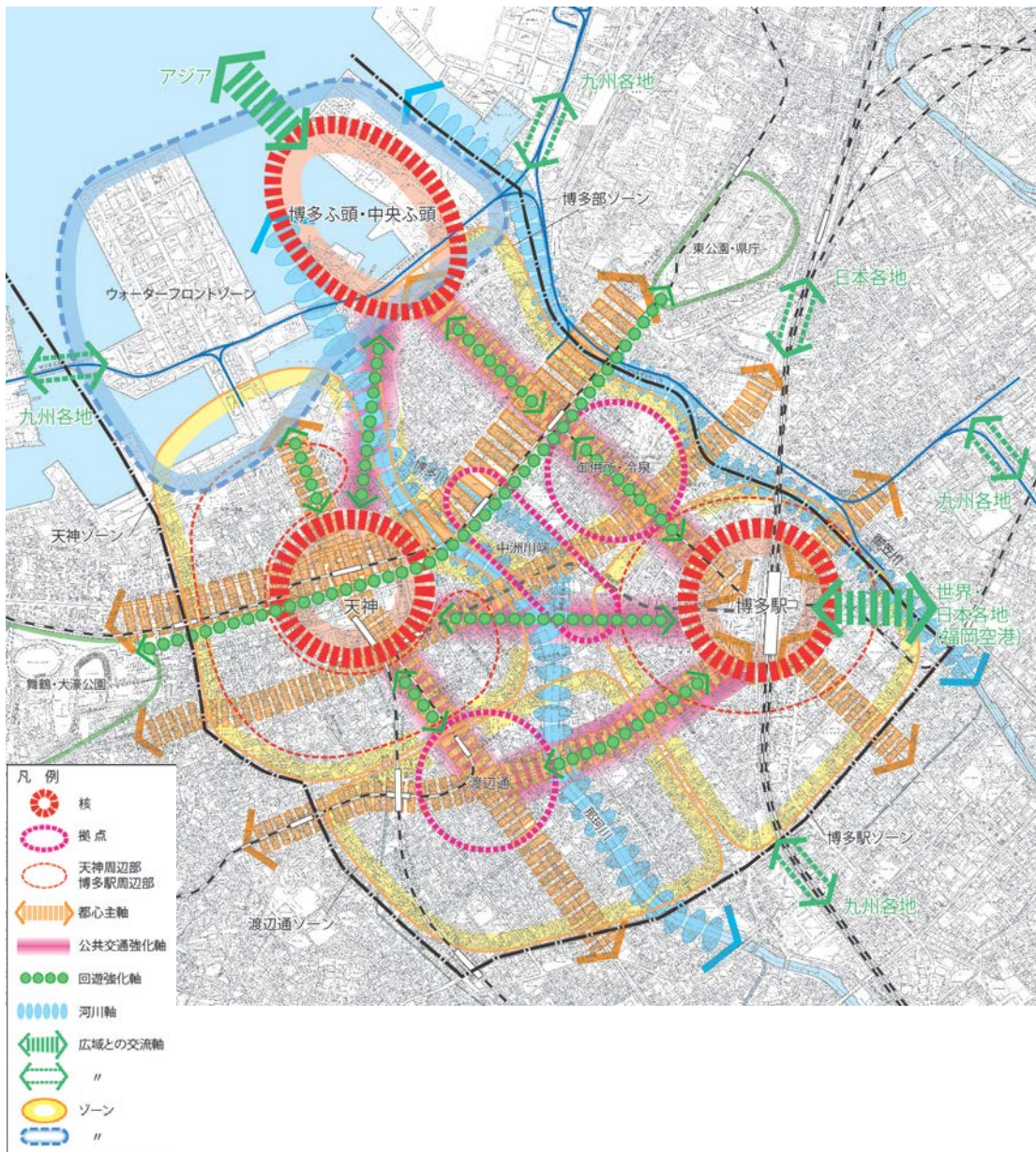
成長著しいアジアに近接し、今後さらにモノ・ヒトの交流が活発になる博多港と福岡空港について、多様な航路の維持・拡大や、港湾・空港の能力や利便性の向上、都心部や背後圏との連携の強化などの観点から、アジアの玄関口にふさわしい機能強化を図り、物流・人流のゲートウェイづくりを進めます。

2) 福岡市都市計画マスタープラン（都心部編）（H26年5月改定）

【目指すべき都市構造】

- ① 都心部の中核部である天神・渡辺通，博多駅周辺の機能強化
- ② 海に開かれたアジアへの玄関口となる博多ふ頭・中央ふ頭の機能強化
- ③ 都心主軸を骨格とし，各地区が一体となった都心部の機能強化
- ④ 核や拠点をつなぐ都心部回遊軸の強化
- ⑤ 個性を生かした拠点の機能強化と，住み続けられる都心部づくり

■ 都心部の将来の都市構造（イメージ）



3) 福岡市都市交通基本計画(H26年5月策定)

方針9 都心拠点間の公共交通軸の形成と回遊性の向上

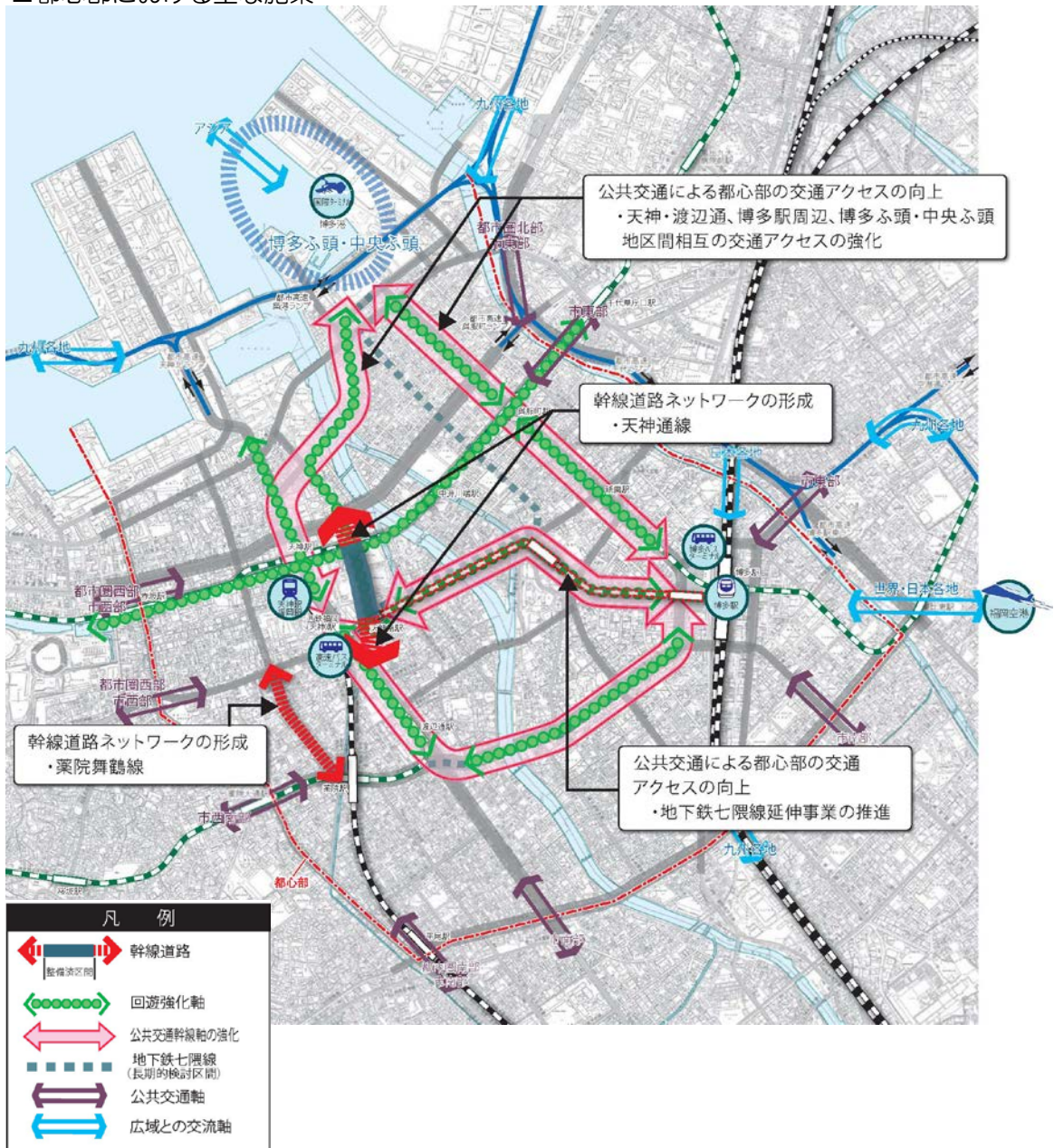
天神・渡辺通、博多駅周辺、博多ふ頭・中央ふ頭地区間相互の連携強化と回遊性向上を図るため、来街者にも分かりやすく使いやすい公共交通幹線軸と、歩いて楽しい歩行空間等の形成に取り組みます。

《主な施策》

○公共交通による都心部の交通アクセスの向上

- ・地下鉄七隈線延伸事業の推進【再掲】
- ・天神・渡辺通、博多駅周辺、博多ふ頭・中央ふ頭地区相互の交通アクセスの強化
- ・都心部と福岡空港の交通アクセスの強化 など

■都心部における主な施策



4) 都市再生緊急整備地域及び特定都市再生緊急整備地域

都市再生緊急整備地域は、都市再生特別措置法に基づき、急速な国際化などに対応するため、官民連携で都市再生を推進することを目的に国が指定するものです。

また、平成 23 年に創設された特定都市再生緊急整備地域は、都市の国際競争力の強化を図る上で重要な地域（現在 7 都市 11 地域）が指定を受けており、福岡市では、天神・渡辺通地区、博多駅周辺地区に並び、ウォーターフロント地区が指定されています。

指定地域では、民間都市開発事業への税制優遇策や都市基盤整備への財政支援など国の重点支援が用意されており、着実な事業推進を支援しています。

■地域整備方針（ウォーターフロント関係の抜粋）

都市再生緊急整備地域【整備の目標】

外国航路乗降人数が日本一の国際ターミナル港を有するウォーターフロント（中央ふ頭、博多ふ頭）地区において、親水空間を生かし、賑わいと風格を備えた国際交流の中枢拠点を形成

広域交通の拠点である天神・渡辺通地区、博多駅地区、ウォーターフロント地区の一体性を強化することで、アジアと九州・西日本地域をつなぐビジネス・観光のゲートウェイにふさわしい魅力ある都市空間を形成

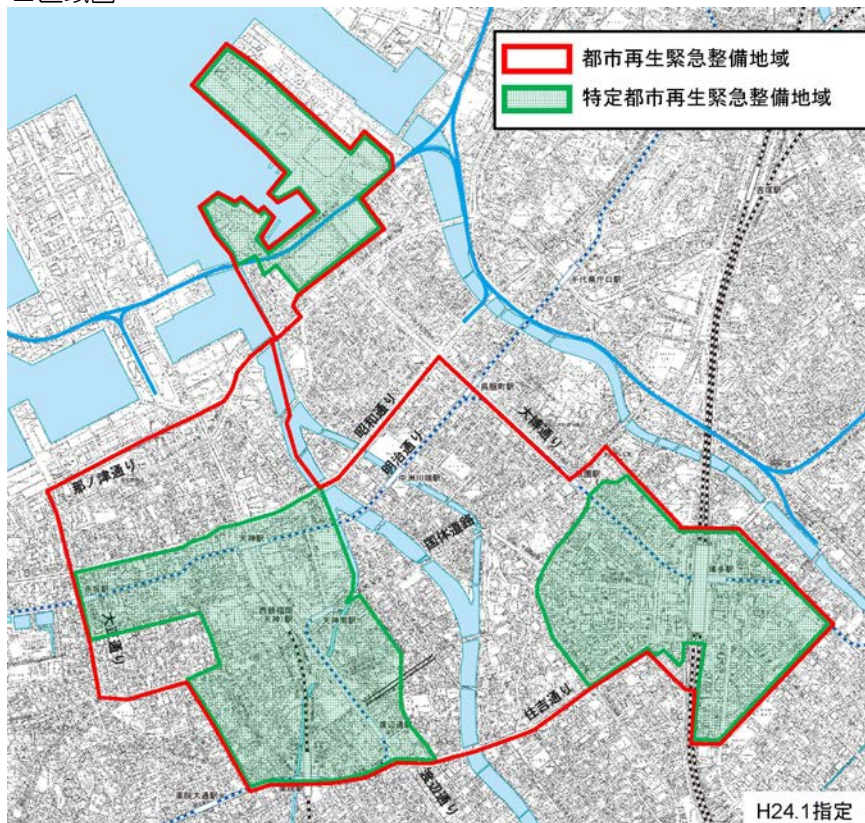
併せて、訪れる人が誰でも安心して楽しく歩くことができるユニバーサルで回遊性の高い都市空間や災害時でも都市機能の継続性を確保できる高度な防災力を備えた都市空間を形成

特定都市再生緊急整備地域【整備の目標】

天神・渡辺通、博多駅周辺、ウォーターフロント地区において、商業・業務・交通・観光などの視点から地区の特性を高め、一体不可分となって機能強化を図ることで、質の高い都市型産業の集積や交流・おもてなしの場として、国際競争力の強化に資する都市機能の中枢拠点を形成

（ウォーターフロント地区）既存施設とあわせた国際的なコンベンションや宿泊・観光拠点を形成

■区域図



2. ウォーターフロント地区の現状と課題

(1) MICE・集客交流

① 既存コンベンション施設の高い稼働率とお断りによる経済的な機会損失

- コンベンションゾーンの既存施設においては、会議場、展示会、コンサートなど様々なイベントに利用されており、いずれの施設も稼働率が70%を超えています。
- 特にマリンメッセ福岡や福岡国際センターなど展示施設の稼働率は、ほぼ上限の80%超で、年間50件程度利用をお断りするなど、経済的な機会損失が生じています。
- また、利用者は国内リピーターが中心で、新規催事の受け入れが困難な状況です。

■施設別稼働率

区分	マリンメッセ福岡	福岡国際センター	福岡国際会議場	福岡サンパレス
平成22年度	81.5%	78.2%	64.8%	67.4%
平成23年度	81.5%	88.1%	67.7%	69.3%
平成24年度	83.0%	86.9%	70.7%	72.4%
平成25年度	90.4%	85.7%	65.7%	66.0%

※マリンメッセ福岡・福岡国際センター・福岡サンパレスは日数ベース、福岡国際会議場は利用室数ベース

※稼働率80%超は上限ぎりぎりの運営状況であり、空き日がほとんどない状況です。

②ゾーン内コンベンション施設の一体性・連続性の不足

- 国内外のMICE先進都市では、「※オール・イン・ワン」を実現していますが、コンベンションゾーンにおいては、すでにコンベンション施設が集積しているものの、宿泊や賑わい機能が不足しており、施設の一体性・連続性が確保されていないことから、MICE誘致の国際競争力上の課題となっています。
- また、国際的には、知名度の向上や誘致力の向上も課題となっています。

※オール・イン・ワンとは、展示場、会議室、宿泊、宴会場などのMICE関連施設や飲食店、休憩所等が徒歩圏内に一体的・機能的に配置されること。MICE参加者の利便性が非常に高い。

■2施設同時利用の実績件数及び施設間距離

区分	2施設同時利用件数	各施設間の距離
平成22年度	13	<p>施設間は連絡通路で連結</p> <p>連結されていない 距離は約350m 5~6分程度</p>
平成23年度	11	
平成24年度	16	

※大規模学会等は複数施設を同時利用しており、利用客は施設間を移動しています。

③市民が気軽に楽しめる海辺空間や賑わいの不足

- 飲食機能やゾーン内の回遊性など賑わいが不足しており、市民やコンベンション利用者にとって利便性が不足しています。
- 天神や博多駅と近いにも関わらず、市民にとって身近な場所となっていません。
- コンベンションやイベント開催時と平常時の賑わいに差があります。

④中央ふ頭と博多ふ頭の集客交流施設との連続性や連携の不足

- ・約 500m程ある中央ふ頭のマリンメッセ福岡付近から博多ふ頭のベイサイドプレイスまでの間は、護岸から修景されたプロムナードですが、賑わいの連続性や連携が不十分であり、日常的な回遊がみられません。

⑤ウォーターフロント地区の顔となるようなシンボル性が乏しい

- ・コンベンション施設の集積やクルーズ船の寄港の拡大などにより、多くの来街者が訪れるものの、地区の顔となるような空間や施設がありません。

(2) 港湾（人流・物流）

① クルーズ需要の拡大に対し、受入環境が不十分

- ・中央ふ頭には、大型クルーズ客船が着岸できる岸壁が1つしかないため、大型クルーズ客船が2隻同時に着岸できません。
- ・博多港には、クルーズ船用のターミナル施設がないため、クルーズ船の船内レストランなどのスペースを活用して入国審査を行う場合もあり、また、クルーズの着岸場所には、夏の日差しや風雨を遮ることができる屋根付きの待機スペースもありません。

<インバウンド>

○船内での入国審査



船内のレストラン等を活用

○受入機能の不備



日差しや風を遮る屋根がない

<アウトバウンド>

○博多港国際ターミナルでは、400人規模が限界



手荷物は仮設テントで対応



施設がなく屋外で受付する場合も

② 人流及び物流の両面で重要な拠点であるが、各機能が混在

- ・天神や博多駅といった都心に近くアクセスが便利な中央・博多ふ頭においては、国際・国内の様々な定期航路等が就航しており、人だけではなく貨物も輸送していることから、人流機能と物流機能の調和が必要です。
- ・また、中央ふ頭では施設の老朽化が進み、更新時期を迎える施設もあります。

(3) 交通

① 公共交通によるアクセス性の不足

- ・都心部（天神・渡辺通地区，博多駅周辺地区）を結ぶバス路線や乗り場が分かりにくい状況です。
- ・特にイベント時には，公共交通アクセスの定時性・速達性が低下し，輸送力が不足しています。

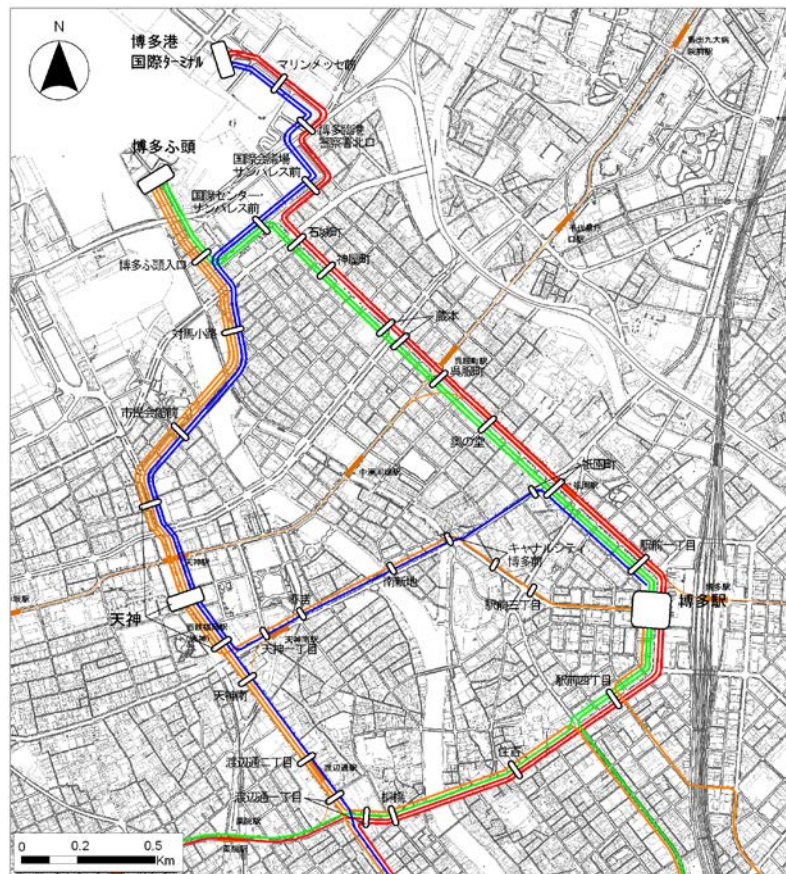
② 地区内の交通混雑

- ・イベント時を中心に，周辺道路において著しい交通混雑が見受けられます。

③ 拠点間の回遊環境の課題

- ・天神・渡辺通，博多駅周辺とウォーターフロント地区を有機的につなぎ，回遊性を向上させるうえでは，案内サイン，花やみどりの演出など，安心して楽しく歩ける仕掛けが不足しています。

■ウォーターフロント地区と都心部を結ぶバス路線



方面	運行本数(本/日・片側)		
	平日	土曜	日・祝日
博多駅⇒ウォーターフロント地区	178	177	168
天神・渡辺通⇒ウォーターフロント地区	164	176	156

○福岡空港（国内線）⇒博多駅：58本(平日)

○福岡空港国際線⇒博多駅：29本(全日)

※福岡空港（国内線，国際線）とウォーターフロント地区を直接結ぶ路線バスは運行されていない。

3. 再整備にあたってふまえるべき視点

(1) 中央ふ頭・博多ふ頭の経緯

博多港では、7世紀に外交・交易施設であった鴻臚館が設けられ、12世紀には日本初の人工の港「袖の湊」が築造されるなど、古来より外国との交流を深めてきました。また、近代化の進展に伴い、水深の浅い博多港では、沖合へと港湾機能を展開することで船の大型化などに対応し、福岡市の発展を支えてきました。

中央ふ頭・博多ふ頭地区は、都心に近接し、海の玄関口としての機能や物流機能を有するふ頭として、昭和後期まで整備されてきました。その後、日本の経済社会が国際化、情報化、成熟化へ向かうなかで、中央ふ頭地区及びその周辺地区においてコンベンション機能の導入整備や物流機能の高度化、海上交通におけるターミナル機能の強化などを目的に、ふ頭再開発による博多港国際ターミナルやベイサイドプレイス、マリンメッセ福岡、福岡国際会議場等々の整備を進めるとともに、国際定期旅客船の誘致やコンベンションの誘致などに取り組んできたところです。

しかしながら、近年ではアジアからの大型クルーズ客船の寄港や国際会議の増加により国内外の多くの人々が訪れる一方で、これらの需要に対応できていません。また、アクセス性や回遊性、賑わいなどが不足していることから、都心の貴重な海辺空間が十分に生かされておらず、市民が気軽に楽しめる、身近な空間となっていないなどの課題があります。このことから、ウォーターフロント地区（中央ふ頭・博多ふ頭）のポテンシャルを十分に発揮するための再整備が必要となってきています。

●袖の湊（1100年代）



●昭和23年（1948年）



●平成元年（1989年）



●平成26年（2014年）



(2) ふまえるべき視点

多くの港は、古くはまちと近接し日常的に人々が集うエリアとなっていました。次第に市民の足が遠ざかり、日常的な賑わいが不足した状況にあります。

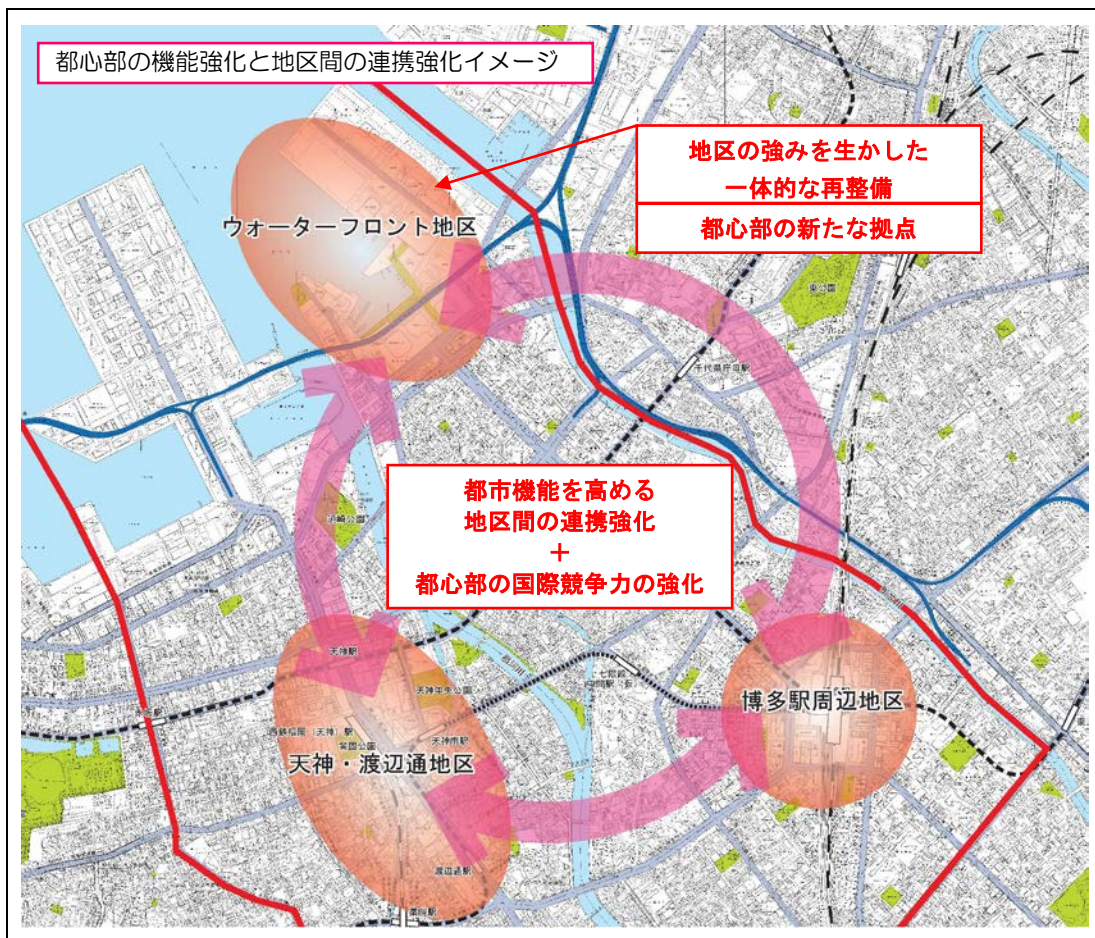
ウォーターフロント地区の再整備にあたっては、これまで培われてきた地区のポテンシャルを大切にしながら、以下の視点もふまえながら進めていくことが必要と考えます。



4. 再整備の方向性

(1) 基本的な考え方

- 1) 天神・渡辺通地区、博多駅周辺地区に次ぐ、都心部の新たな拠点として、都市機能を高めるとともに、地区間の連携強化を図り、福岡市の成長エンジンとなる都心部の国際競争力の強化を図ります。
- 2) 民間活力やノウハウを積極的に活用しながら、既存施設との連携を図りつつ、MICE機能の更なる強化や集客交流機能、港湾機能の充実・強化により、MICE機能と港湾機能が近接した地区の強みを生かした一体的な再整備を行います。
- 3) 市民をはじめ国内外からの来街者が海に出て楽しめるよう、水辺を生かしたシンボリックな空間や賑わいが連続した憩いと潤いのある空間の創出と、海や街からの眺めや緑を大切にした景観形成を図り、福岡の顔となる都心部の新たな拠点をめざします。



(2) 将来イメージ

将来イメージについては、MICE機能や集客交流機能、港湾機能の強化など、早急に取り組むべき課題や、エリア内の既存施設の立地状況等を考慮し、「導入機能」、「交通」、「回遊」の3つの観点から整理したうえで、全体イメージとしてとりまとめました。

1) 導入機能イメージ

①集客・賑わいゾーン

バイサイドプレイスなど既存施設を生かした集客・賑わい機能の強化と合わせ、MICE・賑わいゾーンや親水ゾーンとの連携・連続性を強化し、一体的な魅力を創出する

②MICE・賑わいゾーン

既存コンベンション施設を集積を生かし、新たな展示場、ホテル、賑わい施設等を一体的・機能的に配置し、充実・強化を図る

③エントランスゾーン

親水ゾーンと一体的に海と陸、港と街をつなぐ玄関口として、シンボリックで賑わいある広場などの交流空間の創出を図る

④人流複合ゾーン

クルーズ客船の受入れのための施設など、客船受入れ環境を強化するとともに、国内外の多くの人が集い、楽しむ空間を創出

⑤親水ゾーン

MICE・賑わいゾーンや集客・賑わいゾーンを結び、水辺の開放性を生かした回遊性や賑わいの創出を図る

⑥物流複合ゾーン

物流機能と共存しつつ、将来の港湾（人流）需要への対応を図る

⑦将来拡張ゾーン

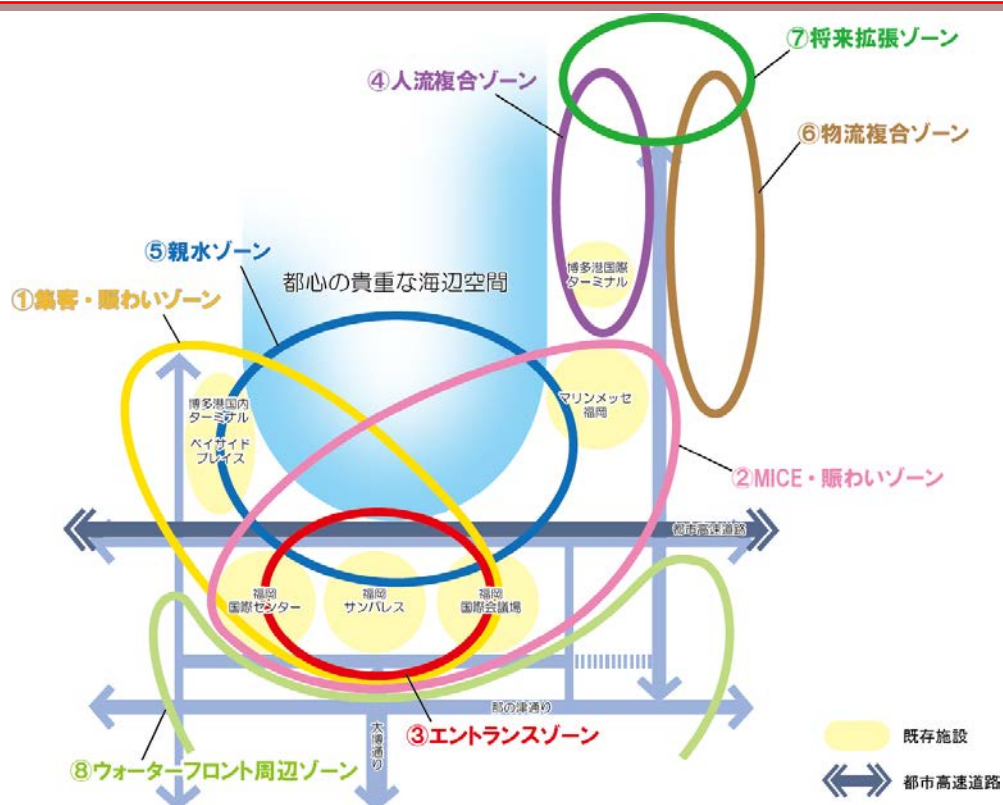
港湾の人流・物流需要等を見据えた空間づくりの検討

⑧ウォーターフロント周辺ゾーン

MICE・賑わいゾーン、集客・賑わいゾーンと連携・補完する商業、業務、居住等の多様な機能の誘導を図る

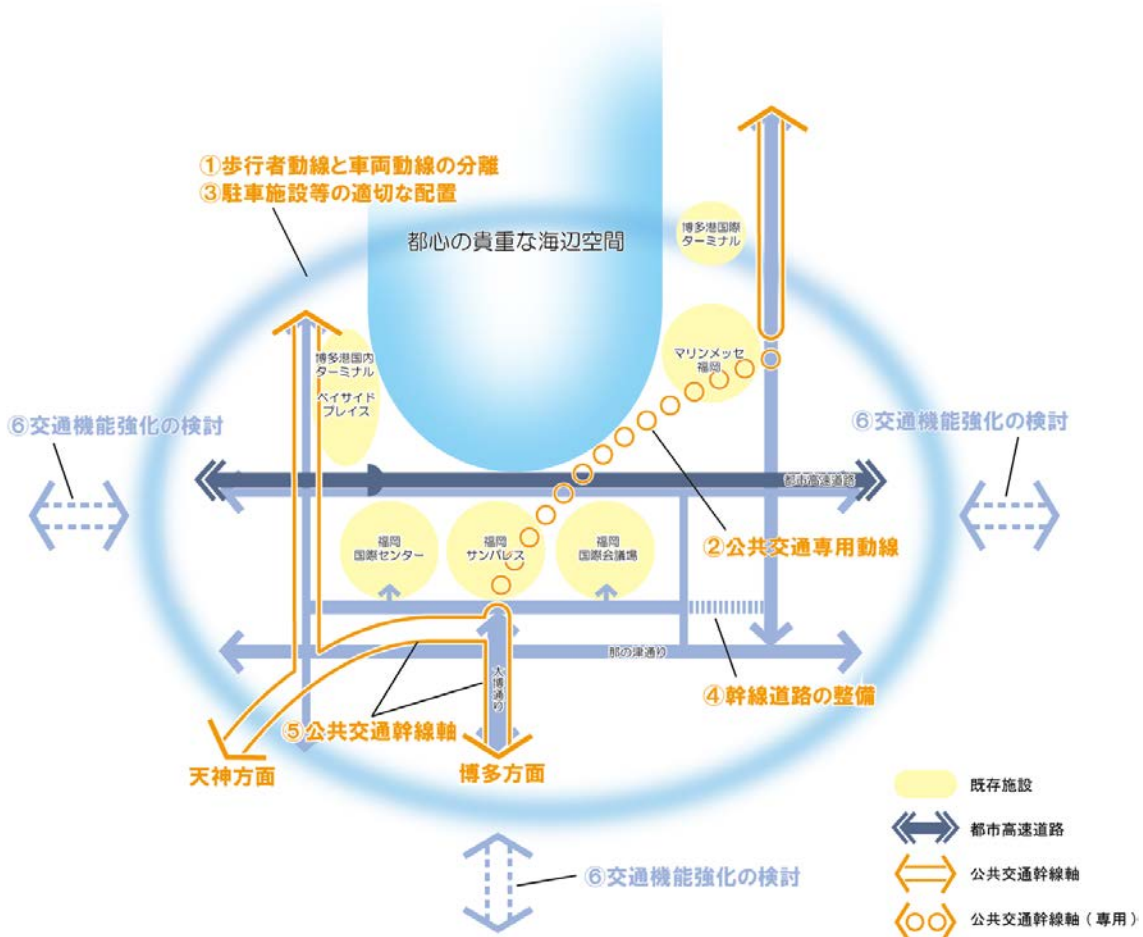
※都心の貴重な海辺空間

都心の貴重な海辺空間として、来街者が海辺の開放感や親水性を楽しめるような空間の創出



2) 交通イメージ

- ①歩行者動線と車両動線の分離による地区内交通円滑化
歩行者と自動車交通を分離することにより、地区内の円滑な交通ネットワークを形成
- ②定時性・速達性を確保する地区内の公共交通専用動線確保の検討
公共交通アクセスの定時性や速達性を確保するため、地区内におけるバス等の公共交通専用動線の確保について、施設の一体性に配慮しつつ検討
- ③駐車施設等の適切な配置による交通混雑の緩和
駐車施設等の適切配置や誘導経路の設定により、地区内の交通混雑の緩和を図る
- ④幹線道路等整備による地区内交通の円滑化
都市計画道路築港石城町線の整備等により、地区内交通の円滑化を図る
- ⑤都心部拠点間の連携を強化する公共交通幹線軸の強化等
天神地区や博多駅地区との連携を強化するため、各拠点間の公共交通幹線軸の強化を図る
また、自転車通行空間の確保など、自転車利用環境の向上も図る
- ⑥まちづくりの進展などに合わせた交通機能強化の検討
将来のまちづくりの進展や交通量等に合わせた、地区内外をつなぐアクセス強化等の検討
- ⑦交通情報の案内等の充実・強化
地区内交通の円滑化を図るため、コンベンションやイベント開催時の交通情報の案内や各駐車場の連携・強化を図る



3) 回遊イメージ

①親水・回遊動線

親水性の高いゆとりある歩行空間の確保や賑わいの連続性を創出するとともに、将来のまちづくりの進展や航路の動向も見据えながら、親水空間を周回できる歩行者動線を検討

②施設連携動線

コンベンション施設や賑わい施設等を円滑に結ぶ歩行者動線の確保

また、コンベンション施設間の歩行者動線は、イベント時もふまえ、自動車交通との輻輳を避け、各施設間の連携を図るため、2階レベルの歩行者ネットワークを検討

③都心拠点との回遊性強化

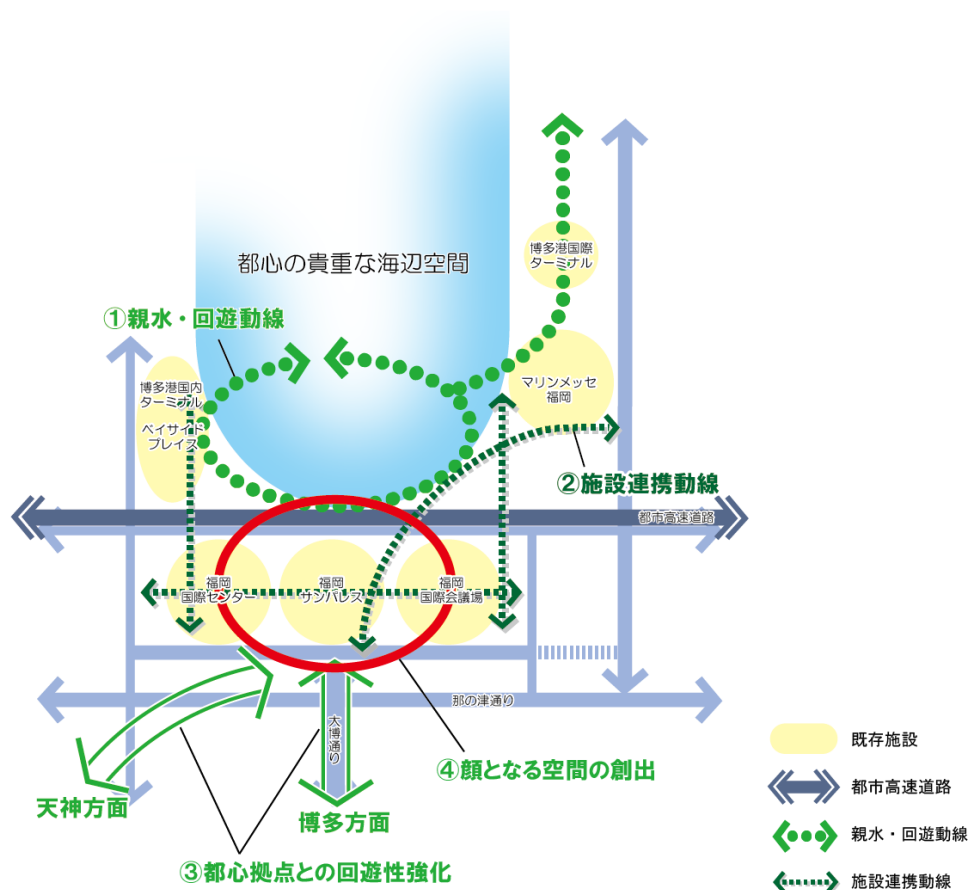
都心拠点（天神・博多駅）とウォーターフロント地区をつなぐ、歩いて楽しい質の高い歩行者空間の創出

④ウォーターフロント地区の顔となる空間の創出

エントランスゾーンにおいて、賑わいや集いを演出する、シンボリックな空間や海と街をつなぐ回遊空間を創出

⑤エリア内移動の円滑化

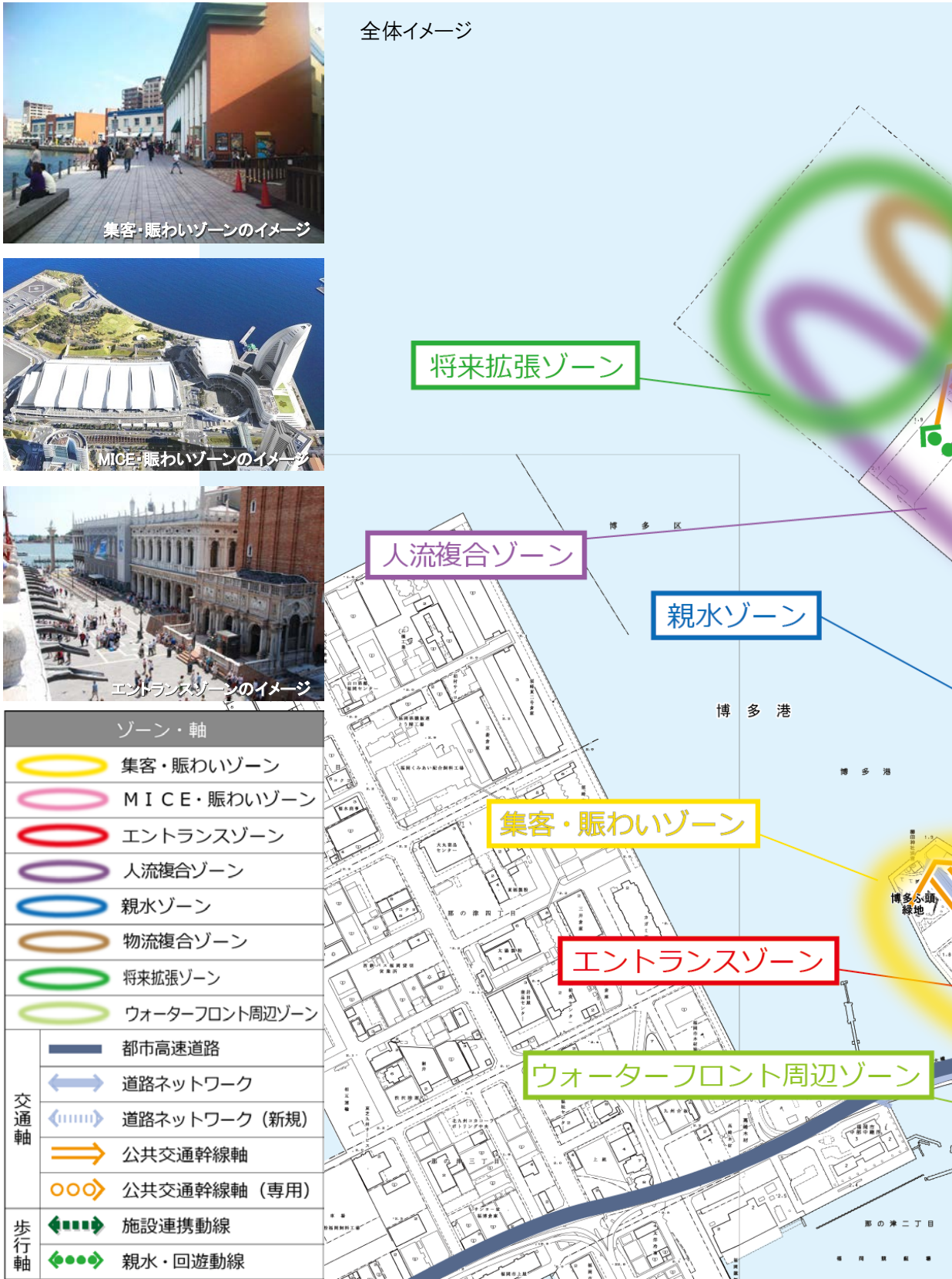
将来的なまちづくりの進展と回遊性の高まりにあわせたエリア内移動の円滑化を検討



4. 再整備の方向性

4) 全体イメージ

「導入機能」、「交通」、「回遊」の3つのイメージを1つにまとめ、全体イメージとします。



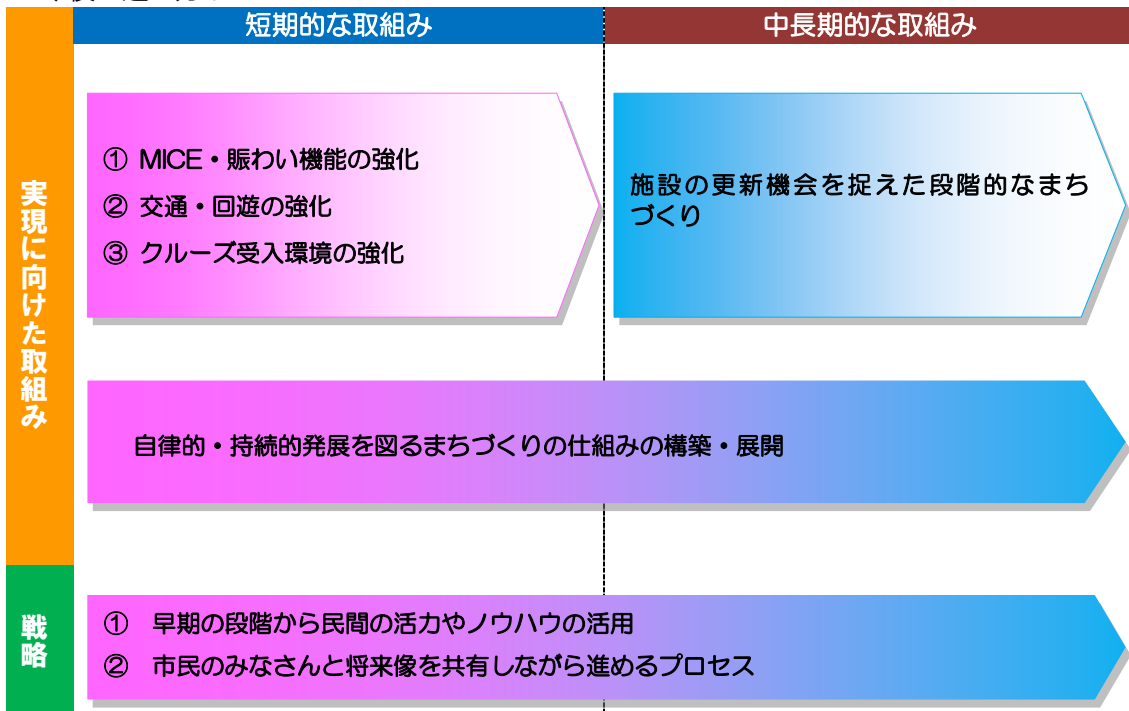


(3) 実現に向けた取組み

1) 今後の進め方

- ウォーターフロント地区の再整備にあたっては、将来イメージに即して段階的に進めていきます。
- 短期的には、既存コンベンション施設の高い稼働率とお断りにより、経済的な機会損失が発生している MICE・賑わいゾーンにおいて、第2期展示場をはじめとしたコンベンション関連施設等の強化を図ります。
- 中長期的には、MICE 需要や港湾の人流需要の動向を見据えるとともに、ウォーターフロント地区内にある施設の更新期を捉えながら、段階的な機能強化を進めます。
- 再整備を進めるにあたっては、まちづくりに向けての機運を的確に捉え、企画力や事業性に優れた民間の活力やノウハウを早期の段階から活用し取り組んでいくことが重要です。
- また、これらの取組みは長期にわたる段階的な取組みになることから、まちの自律的・持続的発展を図るためのまちづくりの仕組みづくりや、賑わい創出の取組みがあわせて必要です。
- まちづくりの実現に向けては、市民のみなさんと将来像を共有しながら取組みを進めます。

■ 今後の進め方イメージ



2) 短期的な取組み（第2期展示場等の完成まで）

① MICE・賑わい機能の強化

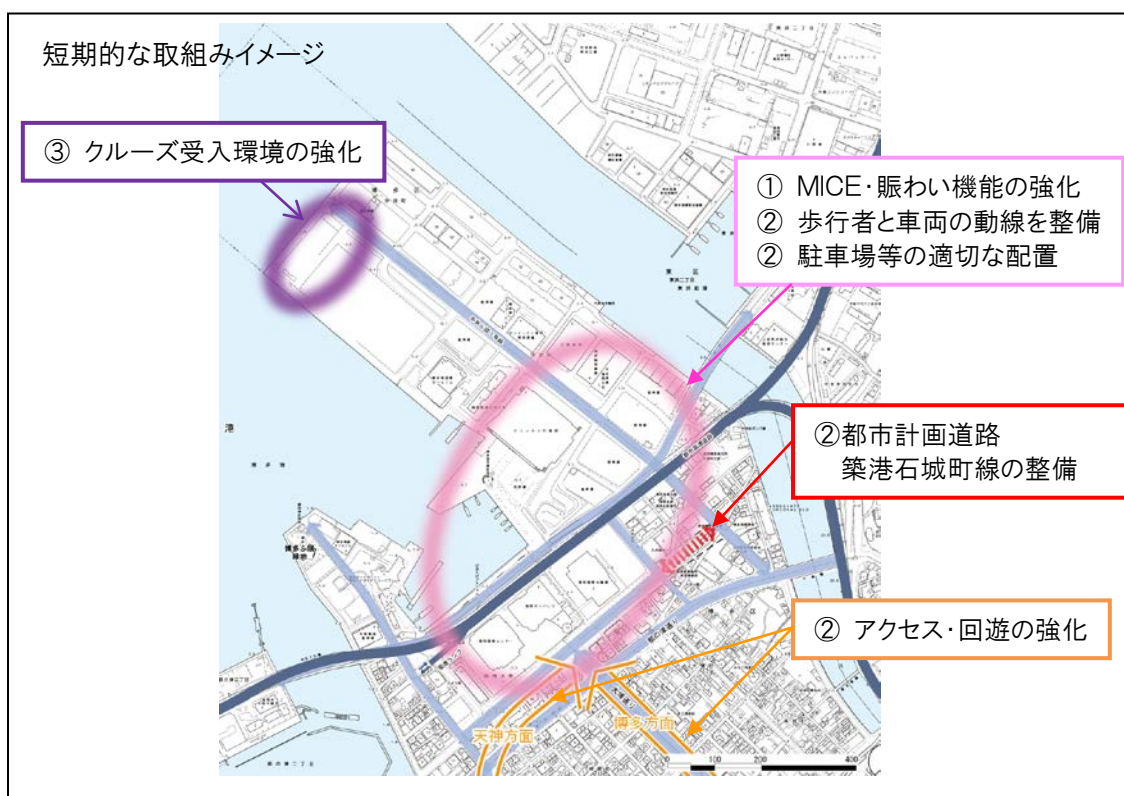
- ・MICE・賑わいゾーンを中心として、第2期展示場の整備やホテルの誘致等による「オール・イン・ワン」の実現と、利便性の向上や日常的な賑わいを創出
- ・MICE 推進の専門的ワンストップ組織の Meeting Place Fukuoka（平成 26 年 4 月設立）とコンベンション施設が連携しながら、コンベンションゾーンにおける MICE 誘致や開催支援を強化

② 交通・回遊の強化

- ・MICE・賑わいゾーンの整備とあわせて、歩行者と車両の動線を整備
- ・通過交通を含め、交通の円滑化に十分配慮した駐車場等の施設配置
- ・都市計画道路築港石城町線の整備による複数の交通動線確保
- ・都心拠点（天神・博多駅）とウォーターフロント地区を結ぶ公共交通幹線軸の形成とサインやバナーなどによる、最寄駅も含めた歩行者回遊の強化

③ クルーズ受入環境の強化

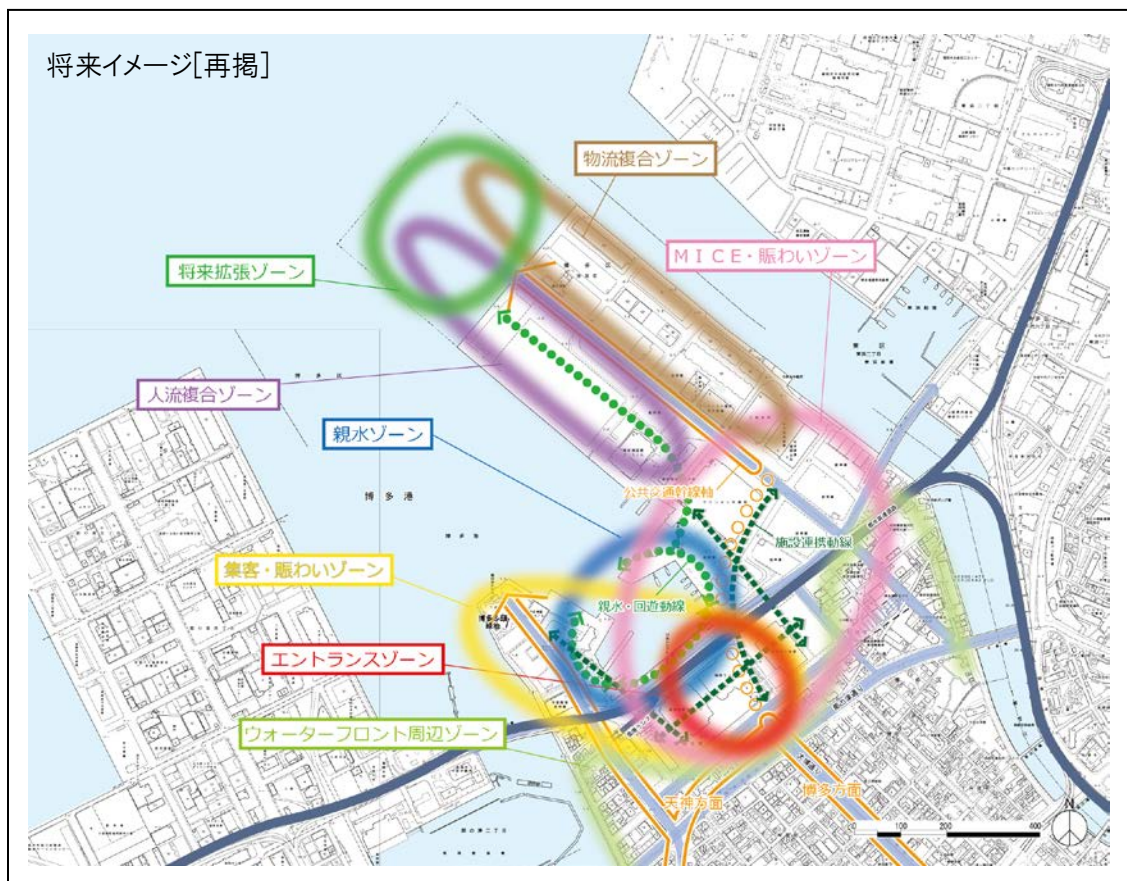
- ・クルーズ船の受入環境の強化として、旅客施設や交通広場等を整備



3) 中長期的な取組み

施設の更新機会を捉えた段階的なまちづくり

- 短期的な取組みによるMICE機能や港湾機能の強化などによるまちづくりの進展と、将来のMICE需要やクルーズ需要等の動向をふまえ、施設の更新の機会を捉えながら、段階的なまちづくりを推進
- 交通についても、まちづくりの進展などの状況に対応した段階的な機能強化を検討
- 段階的なまちづくりにあたっては、再整備の方向性に即して進めるものの、その時々時代の趨勢やニーズに対応し、民間の活力やノウハウを活用しながら、発想豊かに柔軟な取組みを展開



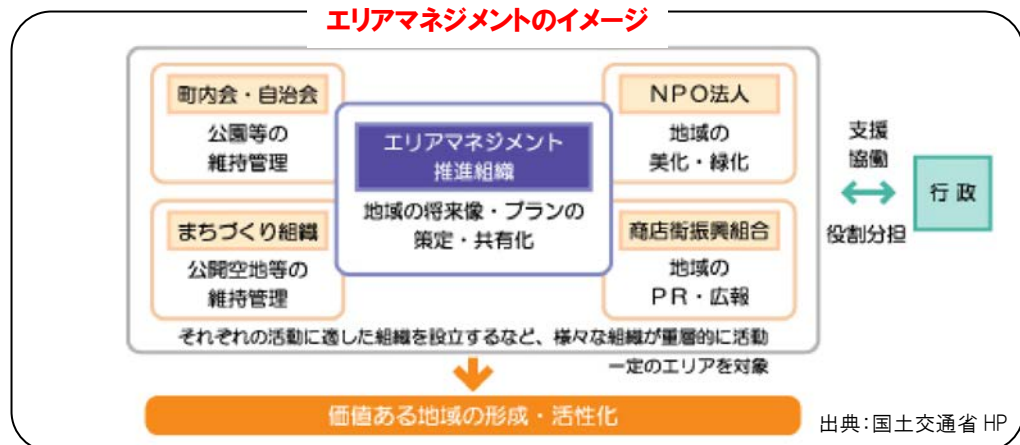
4) 初動期から中長期にかけての取組み

自律的・持続的発展を図るまちづくりの仕組みの構築・展開

- ・計画・整備の段階から管理・運営に至るまで、ウォーターフロント地区のまちづくりに関わる組織や団体が主体的に参画するためのエリアマネジメントの仕組みを検討
- ・官民連携によるオープンカフェやイベントの開催、海や船を生かした取組みなど、集客の工夫による、日常的な賑わいづくり
- ・MICE やクルーズ・観光などで訪れる人を対象とした、博多湾や市内の観光資源と交通等の情報案内や、福岡の伝統や文化の活用など、観光面での連携強化



エリアマネジメントのイメージ



- ・まちづくりの情報発信や関係者の議論の場となる拠点づくり（アーバンデザインセンター等）の検討

